

浜中社 関東ブロック大会実行委員会

2019年12月号

関東ブロックだより

発行 浜中社関東ブロック大会研究チーム (担当 森中 田中良樹)

12月公民部会の様子

12月11日、大綱中学校で授業案の検討をしました。特に授業の問題意識について活発に討議をしました。検討した授業の単元名は以下の通りです。



「消費者が選ぶもの～なぜ高いものを買うのか～」宮原先生（大綱中）

「そうだ、ディベートをやろう！！」今田先生（港中）

「あなたは故郷に満足していますか」山口先生（荏田南中）

「多様な視点から見る経済」田川先生（谷本中）

キャッシュレス化が進む現在、これから10年後、どのような消費行動になるのか・・・消費者として身に付けさせたい見方・考え方を話し合いました。また、ディベートを対話的な学習にするための工夫や、「IRは財政活性化の切り札になるのか？」これから先の地方財政の健全なあり方などを検討しました。自由な雰囲気の中、話題は多岐に及び、教師の問題意識の深まりにつながる示唆に富む話し合いとなりました！

12月地理部会の様子

12月18日、老松中で11月27日の大野先生の研究授業の振り返りを行い、大変有意義な話し合いになりました。今回上がった反省として、

1. 地理的分野の見方、考え方とは何か。（公民的分野の性格が強く感じられたかもしれない）
2. 1時間で完結できるような学習内容、資料の選定
3. よりよい社会を実現する力と授業をどのように結びつけるのか

4. 授業者の問題意識を追究することの難しさ

以上4点が上がりました。これらのことを解決するために、

1. 単元計画を見れば、前後の授業が目につかぶような丁寧な指導案作成が必要
(本時の授業がどのような意味をもつかがはっきりする)

2. 資料を1枚にまとめられると学習活動がスムーズになる

3、4. 「この授業を経験すると、社会を分析する目を養うことができる」このことを目標として授業づくりを行う。

授業を通して、生徒が学習内容の概念の習得だけを目的とするのではなく、授業者の問題意識をしっかりと捉えた上で、自分の考えを、根拠をもって表現すること

とができるか

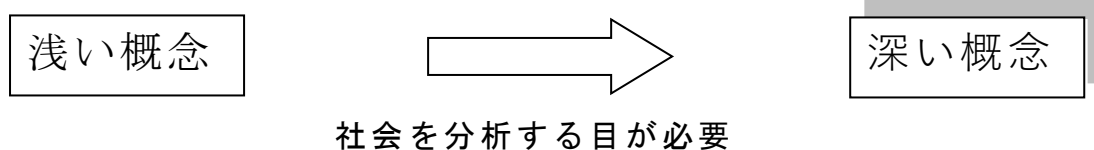
以上のことを地理部会で共有し、今後さらに研究を深めていきたいと思えます。



12月全体研究会

12月27日、横浜吉田中学校CHで全体研究会を行いました。全体研究会では、井上先生（金沢中）の基調提案リハーサルを行い、その後、各分科会に分かれて、指導案フォーマットやこれからの研究の方向性などを確認しました。

現時点では、以下のようなことを検討しています。



(既成事実を疑う、データを精査するなどが分析のきっかけ)

* 浅い概念が深い概念になるにつれて「問題意識」が高まっていくのでは？

☆リニューアルされた浜中社HPもご覧ください。

<https://www.edu.city.yokohama.jp/sch/kenkyu/jhs-syakai/index.html>

右のQRコードをスマートフォン等で読み取ってサイトを閲覧することもできます。

